

(別紙様式3)

令和6年度あいちラーニング推進事業研究報告書【重点校】

学校番号 9

学校名 愛知県立愛知商業高等学校

校長氏名 川口 宗泰

研究責任者職・氏名	教諭・柘植政志	
研究テーマ	「ICTを活用した主体的・対話的な授業」づくり	
本年度の研究目標	(1) 全教科で「主体的・対話的」な授業を日常的に実施できるようにする。特に、ケース・メソッドの充実を図り、商業科の授業だけではなく普通科の授業でもケース・メソッドを取り入れる。 (2) 現職教育の充実。ウェルビーイングを意識した主体的・対話的で深い学びに関する研修や、ロイロノートやチームスの活用講座及びケース・メソッド指導者育成講座を通じて、ICT機器を活用した授業及び主体的・対話的な授業を充実させる。 (3) 2学期の公開授業週間で「ICT機器を活用した主体的・対話的な授業」を実施し、研究授業等も積極的に実施する。	
研究の実施内容		
実施月日	内 容	備 考 (対象生徒等)
【令和6年】 5月7日	あいちラーニング推進委員会①	
5月27日～	公開授業週間「主体的・対話的な授業」	(全クラス対象)
5月27日	ケース・メソッド研修会(公開授業内)	
6月5日	あいちラーニング推進委員会②	
6月26日	現職研修「主体的・対話的で深い学びに関する研修会」	
6月27日～	授業アンケート実施	(全クラス対象)
7月25日	主管校主催 第1回連絡協議会	
7月28日	研究計画書の提出(愛知県教育委員会)	
9月12日	現職研修「ロイロノート・teams ウェルビーイング・心理的安全性に関する研修会」	
9月11日	あいちラーニング推進委員会③	
10月7日～	公開授業週間「ICT機器を活用した主体的・対話的な授業」	(全クラス対象)
10月9日	主管校学校訪問(研究授業、研究協議)	
11月21日～	授業アンケート実施	(全クラス対象)
11月26日	あいちラーニング推進委員会④	
12月23日	各教科「ICTを活用した主体的・対話的な授業」報告	
【令和7年】 1月21日	あいちラーニング推進委員会⑤	
1月22日	公開授業週間及び授業アンケートに関する報告(職員会議)	
〃	あいちラーニングのまとめ報告(職員会議)	
3月12日	研究報告書の提出(愛知県教育委員会)	

研究成果の評価及び普及・還元に関する実績

1 今年度の研究概要

昨年度より「あいちラーニング推進事業」の重点校となり、ICT 機器活用と主体的・対話的で深い学びを融合させた授業展開を目指すとともに、教員同士が学びあうことによって授業力が向上できるような方策を考え実施した。公開授業週間を活用し、研究授業だけではなく積極的に公開する授業を募り、参観しやすい雰囲気を作ることで授業改善に向けた取組を実施してきた。今年度はさらなる授業改善に向けて、主体的対話的な学びと ICT の可能性について模索すると共に、ウェルビーイングと学力に関する相関について研究を行う。

2 今年度の研究に関する普及・還元に関する計画と評価手法

【計画】

- (1) 公開授業週間では teams を活用し、どのような授業を展開しているかを明確にする。積極的な授業参観を促し、授業改善の機会とする。
- (2) 学期ごとにステップアップアンケートを実施し、生徒の評価から授業改善を実施する。
- (3) ウェルビーイングを意識した主体的な生徒を育成する発問やルール作りを行い、共有する。
- (4) 「ICT 機器を活用した主体的・対話的な授業」の報告書を作成し、全職員で授業内容を共有し、授業改善の意識を高める。

【評価手法】

- (1) 公開授業週間の実施に向けた公開方法の変更と実践
- (2) ステップアップアンケートよのデータ検証
- (3) 現職研修での周知と共有
- (4) 各教科報告書の提出と会議内での共有及び検証

3 今年度の取組（あいちラーニング推進事業の取組）

あいちラーニング推進事業の研究目標を達成させるために、次のように取組を行った。

(1) 研究組織について

今年度は昨年度に引き続き、研究組織を「あいちラーニング推進委員会」として教科主任会に教育情報課主任も加えた組織を構築した。本取組の概要説明及び今後の取組について共通認識を持つと共に、教科主任会を活用して本事業についての意見共有を行い、公開授業週間での実施報告やステップアップアンケートの検証など、主体的・対話的で深い学びに向けて各教科の取組状況を共有する場となった。

(2) 公開授業週間

今年度も「主体的・対話的で深い学び」での授業充実を図るために、5月及び10月を公開授業週間とし、テーマを「主体的・対話的な授業」に設定した。全授業を原則公開としつつ、研修の一環として一部の先生方には積極的に授業を公開してもらい teams を用いて先生方に周知することで授業改善の促進を図った。また、ユネスコスクールである本校の特徴を生かし、各教科で SDGs に関する内容に触れてもらいながら、あらゆる視点から SDGs について考えることができる生徒の育成を目指した。

(3) ケース・メソッドに関する研修会

主体的対話的な授業を作りあげる手法の一つとして、教科「商業」、科目「ビジネス基礎」の授業の科目担当者を中心にケース・メソッドに関する研修会を実施した。公開授業週間内で実施したケース教材を使った授業を商業科に関わらず、全ての教科の先生方に向けて公開し、主体的・対話的な授業づくりのヒントとなった。



【ケース教材を活用した授業の様子】

(ケース) ㊦
 □山田花子は今年の春、名古屋商事株式会社に入社したばかりの新入社員である。入社したばかりの4月は新入社員研修で、社会人として必要な知識やマナー、会社の業務内容について毎日研修を受けてきた。5月に入り新入社員は各部署に配属された。山田花子は希望していた営業部への配属が決まり、2年先輩の大阪直子が山田花子の教育係となった。大阪直子は面倒見がよく、後輩である山田花子に営業部での仕事について丁寧に指導をしてくれ、花子は大阪直子に対して絶大な信頼を寄せている。希望した営業部での仕事は毎日忙しいながらも、花子は充実した日々を過ごしていた。㊦
 □営業部での仕事にも慣れてきたある日、花子は経理部にファイルを選ぶよう頼まれ、両手一杯にファイルを抱えてエレベーターが来るのを待っていた。エレベーターが到着し、乗り込もうとしたところ、後ろから花子の上司である営業部長の田中と取引先である関東商事株式会社の佐藤部長が談笑しながら歩いてきた。花子はエレベーターの操作を自分がするべきだとは思ったが、両手がふさがっていたため、何も言わず慌ててエレベーターの奥に乗り込み、部長たちが続いて乗り込むのを待っていた。顔を上げると、田中部長はこちらを覗くように見ながら、エレベーターの操作盤の前に立ち、エレベーターの操作をしていた。取引先の佐藤部長も困った表情をしており、エレベーターが到着するまで沈黙が続いた。㊦
 その後、花子が経理部から戻ってくると、部長の田中がものすごい剣幕で花子のところにやって来て「お客様の前でどういうつもりだ！君はそれでも社会人か！」と怒鳴った。㊦
 花子はどうしていいのか分からず、泣き出してしまった。その様子を見ていた先輩の大阪直子は、田中部長に「私の指導が足りず申し訳ありませんでした。今後このようなことがないように致します。」と深々と頭を下げた。その姿を見た花子は、信頼する先輩にまで迷惑をかけてしまい申し訳ない気持ちでいっぱいになった。泣き続ける花子を見て、大阪直子は、花子を別室に連れていき、花子と話をすることにした。㊦

(アサインメント) ㊦
 □1□このケースを読んで、あなたはどのように感じましたか。㊦
 □□□①山田花子に対して㊦
 ㊦
 ㊦
 ㊦
 □□□②佐藤部長に対して㊦
 ㊦
 ㊦
 □□□③先輩の大阪直子に対して㊦
 ㊦
 ㊦

【マナーに関する学習を考えるケース教材 抜粋】

(4) 主体的・対話的で深い学びに関する研修会（現職研修）
 新学習指導要領の説明会等があった当時の資料を用いながら、改めて新学習指導要領の趣旨を説明。世の中で求められる人材の変化に伴う新たな学力観の考え方や、観点別の評価の手法・注意点、日本以外の評価の考え方や実例を紹介し、深い学びに関する深まりの考え方などを研修。

本日の
ゴール

1 新カリのポイントを理解する
 2 各観点を理解する
 3 評価の仕方を理解する

問いと学習活動（学びの深さ）
振り返る・見直しを持つ
別の問題に当てはめる
仮説を立てる
説明する
関連付ける・比較する
中心となる考え方をつかむ
図に表す
他の言葉で言い換える
資料の内容を理解する
語句を思い出す
暗記する

【研修使用スライド（抜粋）】

(5) ロイロノート・teams ウェルビーイング・心理的安全性に関する研修会（現職研修）
 ウェルビーイングと学力の関連性と主体的な議論を育むための心理的安全性を確保して主体的な議論を行う手法として、4つの不安「無知、無能、否定的、邪魔者」に関する研修を実施。その後、ロイロノートの共有ノートを紹介し、本研修における学びを共有した。

11と17

[問題 11]授業を受けて、科目の学力や技能が向上したと実感していますか。
 [問題 17]この授業で、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うことはありましたか。*

※令和6年度 1学期授業アンケートより（列集計比率）

【11】	【17】				総計
	してみたいと思った	少ししてみたいと思った	あまり思わなかった	全く思わない	
とても実感している	80.31%	29.21%	15.76%	16.17%	32.41%
実感する場面が多い	17.01%	59.77%	45.92%	28.38%	44.72%
あまり実感していない	2.20%	10.81%	36.66%	34.98%	20.40%
全く実感していない	0.47%	0.21%	1.66%	20.46%	2.47%
総計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%



【研修使用スライド（抜粋）】

不安なく発言できる条件・発言できなくなる不安【現職研修での意見集約より】

答えが合っているか不安だから。答えに自信がないから。
発言をするときに注目されるのが緊張する
評価されない
自信のなさ
自分の考えを誰かに知られるのが恥ずかしいから
良好な人間関係
信じている人に聞いてもらう
間違っているかもしれないという不安
間違いや失敗を過度に恐れるから
生徒同士で話し合わせてから、少し自信を持たせて発言させる。
無知だと思われる。そんなことも知らないのかと不安だから発言できない。
恥ずかしい
少しでも間違えると無能であると思われる。
はずかしい以上に無能と思われるのはいやではないか。
様々な視点から物事を考えることができる資料(データ)を持つことで、話し出す話題を豊富に持つこと。
自分の意見が他者にどう感じとられるか、評価されるかが心配だから。
無能力
正解を出さないといけないというプレッシャー
間違えると恥ずかしい。失敗経験が少ない。正解かどうか不安である。発言すると自分がどう思われるか気にしてしまう
目立ちたくない
自分の考えを知られるのがはずかしい
自分の考えを否定されるかもしれないと恐れている
無知
周囲と違う意見を述べたときに、周囲から笑われたり、否定されたりするのが怖い。
違う意見を言ったときに、笑われたりしてしまうのが怖い。自分の意見に自信をもてない
否定されるかもしれないという不安
人前で話すことに慣れていない。恥ずかしい。否定されるんじゃないか。間違っているんじゃないか。など
否定されるのではないかと不安。間違いかもしれないという不安
自分の意見に自信を持たせる
周りや違うと思うと発言しにくい
答えに自信がないから
否定しない空気
意見が認められないのではないかと不安
周りや違うのが嫌
意見がないから
わからない



【共有ノート研修 不安なく発言できる条件】

(6) 授業実践報告の共有

公開授業週間を中心に各教科・科目で ICT 機器を活用した主体的・対話的な授業を実践した。その成果を各教科から報告してもらい、それらをまとめ、職員会議で実践内容について共有した。また、本校はユネスコスクールということもあり SDGs に関する内容についても授業で触れてもらうよう依頼をしているため、その内容についても職員会議で共有した。公開授業での参観だけでなく、報告書からも授業改善のヒントを得ることができた。

(7) 授業改善ステップアップアンケート

授業改善を狙いとして、生徒に対し授業アンケートを実施した。今年度は1学期・2学期の各学期の考査返却の際に、自身と教員側の振り返りという位置づけとし、昨年度より実施時期を変更した。ロイロノートのアンケート機能を用いて生徒に回答させ、生徒の意見から自らの授業を見つめ直すことができた。また、教育活動を通じてウェルビーイングの向上に向けた意識付けを図るためにアンケート項目を見直した。

<質問内容>

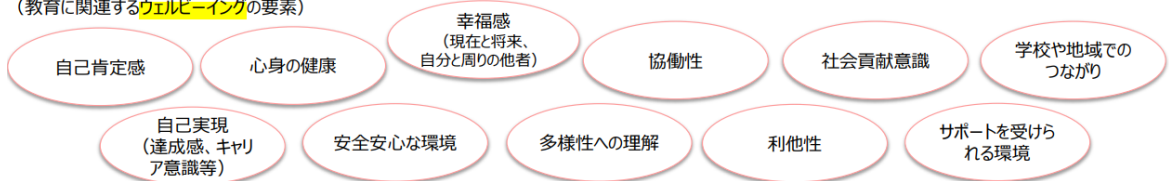
1. あなたは、予習や復習にしっかりと取り組んで授業に臨んでいますか。
2. あなたは、提出物は丁寧に完成し、期日に提出できていますか。
3. 先生は、生徒の私語や居眠り等を指導していますか。
4. 先生は、質問しやすく、丁寧に答えてくれますか。
5. 先生の声の大きさ、話すスピードは適切ですか。
6. 授業の進度や時間配分は適切ですか。
7. 板書等（プロジェクタ含む）は見やすく、工夫されていますか。
8. 教科書やプリントなどの教材は、授業で適切に活用されていますか。
9. 授業中に、考えたり、活動したりする機会は確保されていますか。
10. 授業を受けて、この科目に対する興味や関心が高まったと思いますか。
11. 授業を受けて、科目の学力や技能が向上したと実感できますか。
12. 授業を受けて、将来の夢や目標に良い影響はありましたか。
13. この授業の勉強は好きですか
14. この授業で自分と違う意見について考えるのは楽しいですか。
15. この授業で、人が困っているときは進んで助けていますか。
16. この授業において、クラスをよくするために互いの意見の良いところを生かして解決方法を決めていますか。
17. この授業で、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うことはありましたか。
18. この授業において、先生や周りの友人は自分のいいところを認めてくれますか。
19. この授業の中で、自分のよいところを認識する場面はありますか。
20. この授業のよいと思うところを記入してください。

【ステップアップアンケートにおける質問項目（12～19を追加）】

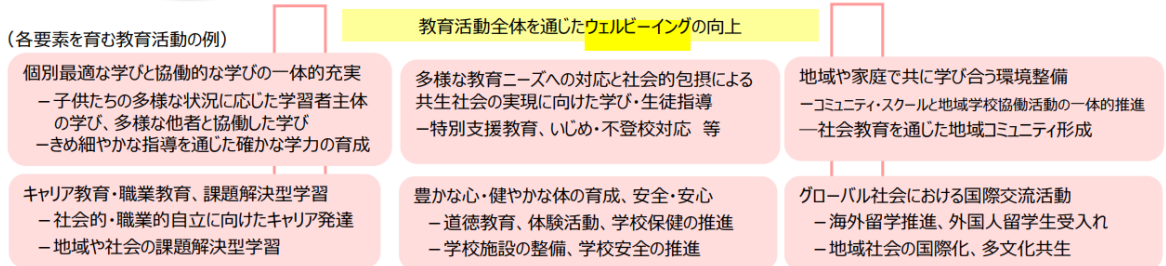
教育とウェルビーイング

- ・不登校やいじめ、貧困など、コロナ禍や社会構造の変化を背景として子供たちの抱える困難が多様化・複雑化する中で、一人一人のウェルビーイングの確保が必要
- ・子供・若者に、つながりや達成などからもたらされる自己肯定感を基盤として、主体性や創造力を育み、持続可能な社会の創り手の育成を図る必要
- ・地域における学びを通じて人々のつながりやかかわりを作り出し、共感的・協動的な関係性に基づく地域コミュニティの基盤を形成

(教育に関連するウェルビーイングの要素)



(各要素を育む教育活動の例)



(関連する主観的指標)

- | | | |
|--|--|---|
| <input type="checkbox"/> 自分にはよいところがあると思う | <input type="checkbox"/> 自分の幸福感 | <input type="checkbox"/> 学級をよくするために互いの意見の良さを生かして解決方法を決める |
| <input type="checkbox"/> 将来の夢や目標を持っている | <input type="checkbox"/> 友人関係の満足度 | <input type="checkbox"/> 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う |
| <input type="checkbox"/> 授業の内容がよく分かる | <input type="checkbox"/> 自分と違う意見について考えるのは楽しい | <input type="checkbox"/> 先生は自分のいいところを認めてくれる |
| <input type="checkbox"/> 勉強は好きと思う | <input type="checkbox"/> 人が困っているときは進んで助けている | <input type="checkbox"/> 困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる |

【ウェルビーイング項目作成時の参考資料（「ウェルビーイングの向上について（次期教育振興基本計画における方向性）」より）】

(8) ウェルビーイングと学力観に関する分析

授業改善と振り返りの一環として実施したステップアップアンケートを分析し、従来の興味・関心と学力観に関する分析だけでなく、ウェルビーイング向上に向けた意識付けを図ることを目的として実施した。

学力とウェルビーイングについてクロス集計分析をした結果、科目に対する興味関心と学力については一定の相関が見られ、学びを定着させるための工夫が必要であることが課題として見られた。ウェルビーイングに関する項目と学力についても、相関関係が見られた。授業手法はもちろんだが、他者や地域社会とのつながり、互いを認める姿勢、貢献する態度などのウェルビーイングの向上は、人生における幸福感や生きがいをもたらすと共に、学力にも影響を与える可能性があることを導き出すことができた。

11 と 13

[問題 11]授業を受けて、科目の学力や技能が向上したと実感していますか。

[問題 13]この授業の勉強は好きですか。※

		【問題 13】				
【問題 11】		そう思う	やや思う	あまり思わない	全く思わない	総計
とても実感している	75.00%	21.31%	3.27%	0.42%	100.00%	
実感する場面が多い	18.34%	62.97%	17.12%	1.57%	100.00%	
あまり実感していない	6.04%	31.07%	54.48%	8.41%	100.00%	
全く実感していない	1.72%	12.07%	22.41%	63.79%	100.00%	
総計					100.00%	

11 と 19

[問題 11]授業を受けて、科目の学力や技能が向上したと実感していますか。

[問題 19]この授業の中で自分のよいところを認識する場面はありますか。※

		【問題 19】				
【問題 11】		ある	少しある	あまりない	全くない	総計
とても実感している	66.36%	25.34%	5.96%	2.35%	100.00%	
実感する場面が多い	9.29%	64.34%	23.93%	2.44%	100.00%	
あまり実感していない	3.45%	21.57%	64.08%	10.90%	100.00%	
全く実感していない	1.72%	0.86%	28.45%	68.97%	100.00%	
総計					100.00%	

【ウェルビーイングに関する項目と学力・技能に関する分析結果（令和6年11月アンケート資料より）】

4 各教科での取組

(1) 国語科

ア 今年度、教科として取り組んだこと

和歌を通して日本古来から続く文化、歴史を学ばせる。

イ ICT を活用した主体的・対話的な授業実践

「小倉百人一首」から、各グループで一首選び、和歌の解釈、作者について、歴史的背景などを調べ、パワーポイントを用いて発表する。

ウ 成果

各グループで異なる和歌を調べたので、発表時には自分が調べた和歌以外の知識をえることができた。また、和歌の訳・解釈だけでなく、作者や歌が詠まれた歴史的背景なども調べたことにより、より一層和歌に対する理解が深まった。

エ 授業改善に向けた反省点

サイトによっては間違った知識を載せている場合もあり、情報の取捨選択に課題が残った。

(2) 地歴公民科

ア 今年度、教科として取り組んだこと

「第二次世界大戦を起こさないためには、どのようにすればよかったか」という問いを立て、授業で第二次世界大戦終結までの歴史を学んだ知識をもとに、どの時点で、どのようなことを行っていたら戦争を防げていたかを考えさせる。それにより、今後戦争が起きそうになってきたとき、どのように行動するべきかを考え、平和で民主的な社会の形成者としての資質を高める。

イ ICT を活用した主体的・対話的な授業実践

【1時間目】

- ・5人から6人のグループを作る。
- ・世界恐慌から第二次世界大戦終結までを学んだ知識をもとに、「第二次世界大戦を起こさないためには、どのようにすればよかったか」の問いに対して、グループごとに話し合い、考察する。その際、エビデンス（根拠）を持って、対策を考えるよう指導する。
- ・グループごとに発表するためのパワーポイントを作成する。
- ・teams内のパワーポイントを共有し、共同して作業を行えるようにする。
- ・インターネットを活用して調べ、グループ内で考察する。

【2時間目】

- ・グループごとにパワーポイントをプロジェクターでスクリーンに映し、発表を行う。
- ・質疑応答を行う。
- ・ロイロノートに以下の①②の内容で、自分の意見を書き、提出する。①今後戦争を起こさないようにするにはどうすればよいか。②今回の2時間の授業を通して何を得たか。また、何を考えたか。

生徒の反応

- ・第二次世界大戦が起こった経緯を振り返り、原因を探り、それを除く方策を意欲的に考え、多くの意見をだし、考察していた。
- ・具体的な出来事を根拠として、その時こうすればよかったという意見を出すことによって、当時の状況をより深く理解できるようになった。
- ・「過去を知ることによって、今後の世界で戦争をおこさないようにできる」という意見が出た。

ウ 成果

生徒は、ICT 機器をスムーズに扱えるようになり、効果的に使用することができるようになった。パワーポイントなどを共有することで意見を出したり、作業を行いやすく、考察する時間を取りやすくなった。

ICT 機器を効果的に使用することで、生徒が主体的に考察し、深く学ぶことができた。

(3) 数学科

ア 今年度、教科として取り組んだこと

x の2次関数 $y = ax^2 + bx + c$ のグラフと定数 a, b, c の関係性をグラフ作成ソフト Grapes を利用して調べる。その結果として、一般形 $y = ax^2 + bx + c$ では頂点の座標を予想できないため、標準形 $y = a(x - p)^2 + q$ が必要であることを発見させる。

イ ICT を活用した主体的・対話的な授業実践

Grapes を利用し、 $y = ax^2 + bx + c$ の定数 a, b, c 値を変化させ、それに応じてグラフがどのように変化するかを考えさせた。

ウ 成果

式を入力するだけでグラフが描画されること、細かな設定が必要ないことに感心していた。生徒が発見した事柄が正しいかどうかをすぐに各自で確認できるので、生徒が積極的に特徴を見つけようと活動が活発だった。また、教科書に載っていない内容のため、生徒は法則性を見つけようとよく悩んでくれた。

法則性は検証が簡単なため、生徒は非常に積極的にコミュニケーションをとって授業に参加していた。

エ 授業改善に向けた反省点

生徒の PC に Grapes を導入することに時間がかかりかかった。(HP からのダウンロードは失敗が多い。) そのため、teams による配布が一番スムーズだった。

(4) 理科科

ア 今年度、教科として取り組んだこと

必要な知識を詰め込むだけの授業ではなく、「なぜそうなるの？」を考える授業の実践を目指し、グループ学習を通して、生徒たちが議論を重ねながら結論を導き出し、その根拠を科学的・論理的に説明できる力の育成を目指す。

さらに、タブレット端末を効果的に活用することで、生徒たちの意見の共有や発表、実験データの記録や処理などをスムーズに行うことを目指す。

イ ICT を活用した主体的・対話的な授業実践

① 対話的授業の実践を目指すために、ロイロノートを積極的に活用した。ロイロノートの共有ノート機能を使って、グループ内で意見交換をさせ、その後提出箱に各グループの意見を提出させることで、クラス全体で生徒一人一人の意見や考えを共有できるようにした。

② タブレット端末を用いて、実験結果を写真に撮ったり、実験の様子を動画に記録したりしておくようにした。さらに、実験で得られたデータを Teams で集約したり、実験データをもとにエクセルでグラフや表を書かせたりした。

③ 主体的な授業の実践を目指すために、生徒たちが学習課題を自ら設定したり、複数の課題から自分の興味関心に基づいて自由に選択したりできるような場面を設定するようにした。例えば、生物基礎の夏休みの課題では、テーマを 7 つ設定し、その中から好きなものを選択できるようにした。化学基礎の夏休みの課題では、周期表の中で自分の好きな元素を 1 つ選び、それについて詳しく調べてそれを 1 人 1 枚ずつロイロノートのカードにまとめるようにし、夏休み後にそれらのカードをすべて連結することで、各クラスのオリジナル周期表を完成させた。

ウ 成果

ロイロノートを活用することで、クラス全体で容易に生徒一人ひとりの意見や考えを共有することができるようになった。さらに、ロイロノートのカードには自分で図を描いたり、写真を載せたりすることもできるため、発表内容も充実し、より理解しやすいものになった。また、全体の前で自分の意見を述べるのが苦手な生徒も、ロイロノートであれば、カードに書くことによって自分の意見を表明することができるため、多種多様な意見が表出するようになり、より深い議論ができるようになった。さらに、互いの話を聞く姿勢も育まれ、相手の話を互いに聞き合おうとする姿勢がよく見られるようになり、生徒がのびのびと発言できるようになり、言語活動が活発化した。

タブレット端末を使うことで、実験データの記録をとることが容易になり、さらにその後、そのデータを活用してグラフや表にまとめ、他者にわかりやすく説明することができるようになった。

生徒たちが自分の興味関心に基づいてテーマを自由に選択することができるようにしたことで、提出されたレポートの内容が、以前よりも充実したものとなった。また、自由研究に取り組む生徒もおり、主体的に取り組む姿勢が見られた。

エ 授業改善に向けた反省点

生徒主体の授業の実践がまだ不十分であると感じている。「生徒主体の授業」は、生徒たちの「知りたい」、「学びたい」という意欲を引き出さなければ、実現しない。生徒の意欲を引き出すためには、生徒が自分の行動を選択し、決定することができるような環境を整える必要がある。しかし、今年度はそれを十分に行うことができなかった。来年度以降は、夏休みの課題だけでなく、それを授業の中に取り入れていきたい。例えば、生徒主導の仮設実験授業を実践し、実験のテーマ設定から実験の手法まで一連の流れをすべて生徒に決定させるような授業を考案していきたい。

(5) 保健体育科

ア 今年度、教科として取り組んだこと

現在および将来に向けて、健康に関する知識・問題・取り組み等を知り、実践できるようにする。

イ ICTを活用した主体的・対話的な授業実践

時事的な内容を取り込みながら知識をつけさせ、調べ学習やグループワークにより、教科書にない内容に関しても興味を持たせた。また、動画を見せることにより理解を深めさせることができた。

ウ 成果

調べたことを共有できることで、知識が深まった。また、わからない内容も、個々で調べることができ新たな発見が多い。動画を最後に観たことで、より理解が深まった。

エ 授業改善に向けた反省点

週に1時間しかないが、自身の生活を見直すきっかけや保護者の健康を考えるきっかけにもなっており、社会に出て問題が起きた時に、思い出して実践できるところまでもっていきたい。また、意見の共有で、新たな考え方・見方等が増えていき、今後も調べ学習・グループワークは続けて行いたい。

(6) 芸術科（書道）

ア 今年度、教科として取り組んだこと

「漢字の書」の学習において、ロイロノートを活用しデジタル草稿を作成する。

イ ICTを活用した主体的・対話的な授業実践

1・2学期で学習した「漢字の書」の古典の文字を、字書または法帖から写真を撮って集字し、自分が書きたい言葉を書く。そのために言葉の意味と自分の表現したい書表現を調和させ、意図を持って表現することの重要性を理解する。（楷書…力強い 行書…穏やかなど）ロイロノートの機能を活用し、集字した文字を基準の文字（手本）となるように紙面構成を自由に行い、半紙に清書を行い提出させた。その後、作品鑑賞をグループで実施。

ウ 成果

普段、自分が書きたいと思っている言葉でも、基準となる文字（手本）がないと上手に書けないという問題が解消されることによって、書を書く楽しさを感じている様子であった。また、他の生徒の作品を鑑賞することによって客観的に分析する視点を持たせた。

エ 授業改善に向けた反省点

上記の作業を紙で行おうとすると、コピーが非常に面倒で避けがちになる。ロイロノートの機能を活用することによって、書くことへのハードルが下がることが良い点である。しかし、作業を効率よく行わせることに重きをおいているため、文字成立の時代背景や筆脈などを考えて選択しなければならないという知識の部分の指導が疎かになりがちであることが課題である。

(7) 外国語科

ア 今年度、教科として取り組んだこと

キャッシュレス社会について賛成、反対両面から物事を考え、ペアで意見交換し、最終的に自分は賛成か、反対かを述べるができるようにする。

イ ICTを活用した主体的・対話的な授業実践

- ① グループで調べ学習・個人で発表（ICTを使って情報収集）をさせるために、教科書で学習したキャッシュレス社会の良い点、悪い点を英語でまとめる。
- ② 指定された（賛成派 or 反対派）側の意見をグループでまとめ、PowerPoint作成。
- ③ プレゼン原稿作成班からそれぞれのグループの代表者1名からなる4名（3名）の新しいグループで発表。



【グループ学習の様子】

④ 2人が発表、残りのもので動画撮影（あとで feedback 自己評価、また教員が評価をするため）

⑤ 他者を聞いて最終的に自分は賛成か反対かを英文で書き、ロイロノートで提出させる。

ウ 成果

必ず全員が行動しないと成り立たない活動だったので、人任せにならず、英語と向き合えた。普段から ICT 機器を使用しているので生徒はそつなくこなしていた。

自分の英語を客観的に目にする機会があまりないので新鮮だったようである。

ちょうど新紙幣に変わったタイミングでの活動だったので楽しんでやれていた。語学に関して録音機能はとても有益であると感じる。

ただの発表でなく、他者の意見を聞いて自分の意見をもう一度考えることで、主体的に取り組むことができた。

エ 授業改善に向けた反省点

20 人以内だと円滑に行えるが、40 人近くのクラスだと録音が鮮明に取れないのが難点である。

(8) 家庭科

ア 今年度、教科として取り組んだこと

ICT 機器を活用し、活用方法を身に着けるとともに、情報を共有することで他者の作品を評価することで自らの課題を客観的に自己評価し、改善するきっかけとする。

イ ICT を活用した主体的・対話的な授業実践

長期休業中の課題を teams で配信、各自作品を作成して PDF で保存し、ロイロノートに提出。情報を共有して他己評価をし、form にて回答。

ウ 成果

教員の評価だけでなく、他者から評価されることで、しっかりと取り組むことができた。また他者の作品から学ぶ姿勢がみられた。

エ 授業改善に向けた反省点

課題に取り組む視点が少しずつ違うことにより、多くの内容を取り入れることができた。さらに効率よく課題の提示・評価ができるように課題の出し方を工夫していきたい。また、評価を各自にフィードバックできるように取り組んでいきたい。

(9) 商業科

ア 今年度、教科として取り組んだこと

ICT 機器を活用し、課題の提供や提出をスムーズに行い、過去に取り組んだ内容を「提出箱」を確認させることで、ポートフォリオとしての役割を持たせ、振り返りに役立てる。

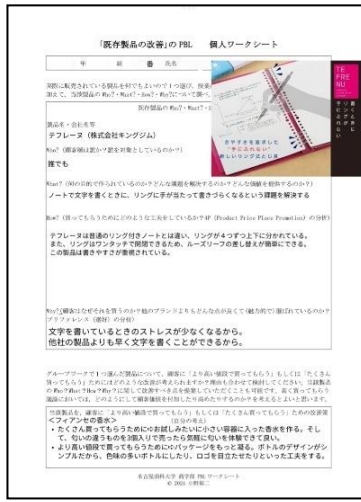
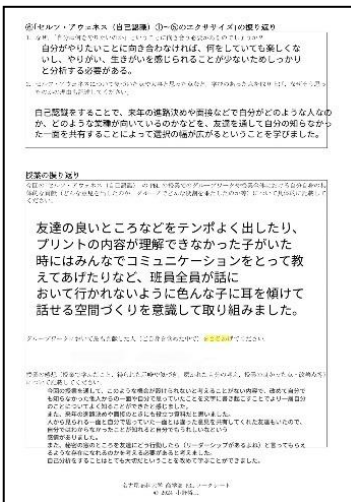
イ ICT を活用した主体的・対話的な授業実践

愛知県教育委員会主催 県立商業高校「ビジネス探究プログラム」において、PBL の授業を 2 年生全学科で実施している。実際の起業などケース教材も活用しながら学習することで主体的・対話的な学びを実現している。

また、グローバルビジネス科では、教材の提供や課題の提出についてロイロノートを活用し、事前課題や実施後のワークシートをロイロノートの「提出箱」機能で、提出させることで、グループ学習での活用や、課題をポートフォリオ化し、振り返りに役立てるだけでなく、教員による確認・点検を効率的に行う。



【ロイロノートを活用した課題提出の様子】



【ロイロノートに提出した PBL 課題とグループ学習での活用】

ウ 成果

生徒は自分の意見をまとめる際、タイピングで入力するため、手書きよりも多くのコメントを入力でき、欠席した際も、各自で教材を確認し、期日までに提出することも可能である。タブレット画面を互いに見せ合いながら、情報を共有できる。検索した画像などをそのまま貼り付けることもできるため、わかりやすく説明することができる。提出期限を授業実施日中などの設定ができるため、感想なども授業時間内で慌てて書くのではなく、時間をしっかり確保して入力する生徒が増えた。

エ 授業改善に向けた反省点

タブレットの充電不足などで使用できない時の対応を検討する必要がある。

5 今年度の研究に関する評価と検証

(1) 公開授業週間の実施に向けた公開方法の変更と実践

ケース・メソッドに関する研修会とセットでの開催や、研修の一環としての公開授業の依頼、公開授業週間でのテーマ設定など従来の公開授業週間のツールを使用しながら、昨年度の内容から改善・実施することができた。しかし、十分な観覧者がいたとは言えないため、授業改善の参考にしたいと思える仕組み作りや、教員側のニーズの把握が必要である。

(2) ステップアップアンケートのデータ検証

全科目で実施したアンケート結果より、従来の授業手法と学力の関連性だけでなく、ウェルビーイング向上と学力に関連性がある可能性を導き出すことができた。特に授業の勉強が好きかどうかは学力と大きく相関関係があり、主体性を育む意味においてもウェルビーイングの向上は重要であることが分かった。

他にも、提出物等は期日に出しているが学力に結びついていない事例や、教員に質問しやすい環境が整っているにも関わらず、同様の事例が見られた。これは、一部で提出物や質問が学力に結びついていない状況が見られるため、提出物や質問に来た生徒に対し学力を定着させる工夫を講じていくことが課題であると言える。

(3) 現職研修での周知と共有

改めて新学習指導要領の考え方に触れると共に、全職員で心理的安全性の在り方について考えることで、生徒を主体的な学習に向かわせるヒントを共有することができた。ここで得た知見を授業で実践していくことが求められる。

(4) 各教科報告書の提出と会議内での共有及び検証

今年度実践した ICT を活用した主体的・対話的授業実践を共有することで、他教科でも応用できる実践などのヒントをつかむことができ、授業改善のきっかけを作ることができた。

6 今年度の課題と次年度に向けて

2年間のあいちラーニング推進事業の取組から、ICT機器を活用することで主体的・対話的な授業を組み立てやすくなる事例があることが分かった。全ての教科で工夫改善を行い、共有を行うことで、学び続ける教員チームが出来上がった。また、現在話題になっているウェルビーイングを含めた研究を行うことによって、従来の授業から新たな改善を行う視座を得ることができ、新たな授業改善に繋がるヒントを得ることができたと言える。

次年度に向けて、今回明らかになった、学力とウェルビーイングとの関連性を元にした、ウェルビーイング向上を意識した授業づくりや、ステップアップアンケートの分析結果から導き出された、十分な学力が定着しない生徒に対する、学力を高めていく手法を各授業で取り入れるだけでなく、分析・パッケージ化することで、組織的に取り組んでいくことが必要であると言える。

現行の学習指導要領による授業がスタートし、3年となったことから各授業や教育課程の振り返りが必要である。カリキュラム・マネジメントの視点を今一度意識し、魅力的な教育活動を展開していきたい。

※ 本研究報告書は、令和7年3月14日までに当該地区の主管校に提出する。

※ 名古屋地区においては、旭丘高校、千種高校、城北つばさ高校、旭陵高校、愛知総合工科高校は瑞陵高校へ、明和高校、守山高校、愛知商業高校、中川青和高校は名古屋西高校へ提出する。